大学発新産業創出プログラム　社会還元加速プログラム（SCORE）
事後評価結果通知

課題番号	STSC29015
研究開発課題名：	触感の感性的・機能的価値の可視化技術の開発
研究代表者所属機関名・ 研究代表者名：	広島大学 大学院工学研究科 准教授 栗田 雄一

1. ビジネスモデル仮説検証の目的

スマートソサエティ 5.0 では、ヒトとモノが一体化することでパフォーマンスが向上することが期待されている。近年ユーザエクスペリエンスデザインに代表されるように、顧客の感じる価値は、モノの機能ではなく、ヒトの体験に軸足が移りつつある。体験的価値の向上を行う上で、我々は触感のもつ可能性に着目した。本課題では、触感の感性的・機能的価値の可視化技術のもつビジネス的価値を検証することを目的とし、想定する顧客、顧客の持つ課題、それに対するソリューションを検討した。

2. ビジネスモデル仮説検証の概要

本プロジェクトでは、次の活動を行った。

1）触感の可視化技術のブラッシュアップ：皮膚感覚としての触感を評価するシステム開発を行った。

2）触感に関するユーザの課題の検討：企業、組織、大学等を訪問して、触感評価により解決できるユーザ課題に関する知見を得た。

3）触感の可視化技術のもつマーケット性の検討：関連業種や競合他社について調査を行い、触感可視化技術のマーケット性に関する知見を得た。

4）触感の可視化技術を表現できる MVP の製作：触感感性を数値化した例となるカタログの試作品を製作した。

① 活動内容と成果

実施した活動内容
① 触感可視化技術の開発 本プロジェクトでは計測のためのプログラムとユーザインタフェースの改良により計測にかかる時間を大幅に短縮することに成功した。またこのシステムを用いて従来の手法との精度比較を行った。 ② 課題検討、マーケット性の検証 対面または遠隔でのヒアリング調査を、プロダクトデザイナー、知覚教育、印刷メーカー、自動車メーカー等の開発担当者に対しておこない、触感可視化技術のマーケット性を検証した。
成果
① プログラムのブラッシュアップによりこれまで間近くかかっていた計測が10分程度で終了するようになった。また従来指標との相関が 0.9 以上あることを確認した。 ② 触感の数値化ができないために、クライアントとのミスコミュニケーションが起こり、製品作りにおいてサンプル製作コスト、人件費、デザイナーの時間的コストがかかっている、という知見を得た。

② 今後の展開

触感の機能的・感性的価値を技術的に創出するための活動を、我々の活動に興味をもってくれた企業と組んで実施していくことに合意している。また触感価値を実現するための技術開発資金を公募助成金で得つつ、技術の出口として、企業へのコンサルティング活動を行っていく。また同時に触感価値創生技術での起業も引き続き模索し、起業への関心の高い学生と情報共有を行っていくことで、技術の人間、経営の人間の両者の育成を行っていく。

3. 総合所見

新しい視点でのビジネスモデルに苦戦しつつも、連携者とともに共同研究を進め、人脈を構築するなど事業化にむけて前進している姿勢を評価する。新しい市場創生につながる期待もあり、活動を継続してほしい。

以上